

COVID-19 中等症患者受け入れ病棟における現状報告

— 感染管理に対する取り組み —

法人名 国家公務員共済組合連合会
病院名 横須賀共済病院
職種・所属 看護師、C棟2階病棟
発表者氏名 西方真奈美
共同者氏名 福住幸子

【はじめに】

当院は740床の横須賀、三浦半島の基幹病院である。COVID-19感染拡大に伴い2020年2月から神奈川県からの要請を受け陽性患者の受け入れが開始となった。2020年4月からは、神奈川モデル高度医療機関として、重症患者と中等症患者を積極的に受け入れている。自部署は、2020年4月からCOVID-19中等症患者、疑似症患者を病棟単位で受け入れることとなった。

限られた資源や環境の中で、患者、医療者共に安全で安心できる環境をめざし、感染管理対策を実施したことで、クラスターの発生なく経過することができているため現状について報告する。

【方法】

COVID-19中等症患者、疑似症患者を、受け入れるにあたり以下のことを実施した。

①環境整備：病棟のゾーニング（陽性エリア・疑似症エリア）、足踏み式アルコールスタンド設置、透析環境の整備、エリア分けした物品配置、②感染に関する情報の周知・共有：マニュアル整備やファイリング・各通知事項の掲示、③職員教育：標準予防策実施状況のチェックリスト活用、個人防護用具着脱までのシミュレーション、疾患や看護技術の勉強会や事例検討。

【結果】

改修工事等エリア分けした事により、患者、医療者間の動線の交差なく一連の業務を行える環境を整えることができた。透析環境を整備したことで、多くの透析患者を受け入れることができた。更に、日々更新される情報に関する周知や共有は、各マニュアルやファイリングを活用する事ができた。標準予防策実施状況のチェックは、防護具着脱や手洗いを中心に定期的実施し、自部署で使用している防護用具の着脱や手洗いの項目について、一人でできるという他者評価が全項目100%と上昇がみられた。

【考察】

現在、適切な感染対策が継続されクラスターの発生もなく経過している。環境、情報、職員教育の視点から取り組んだ事は、患者や医療者を感染から守るために有効であったと考える。透析環境を整えた事で、地域のCOVID-19透析患者の受け入れを円滑に行うことができ、透析施設との連携に繋がった。更に、意識的な情報共有や標準予防策実施状況のチェックは日々の感染管理対策行動に繋がったと考える。

【おわりに】

感染を拡大させないためには、感染経路の遮断、標準予防策の実施が必要である。ウイルスは目に見えないからこそ、一人一人が基本的な感染対策を、確実に実施していくことが大事だと考える。